

化石燃料に依存
しない仕組み

炭を燃やして熱にする

その土地に流れる
水を有効活用

小さな小さな水力発電

有限会社紋珠
高槻バイオチャーエネルギー研究所

所長 島田 勇巳 氏

事例を学び、
安来らしい手法を考える

株式会社リバー・ヴィレッジ

代表 村川 友美 氏

再エネ地産地消セミナー

定員
30名

参加費
無料

安来市では、2023年3月に「安来市再生可能エネルギー地産地消ビジョン」を策定しました。市全体では、年間170億円ものエネルギー料金を安来市の外に支払っています！これを市内循環させるための方法の一つとして、バイオ炭や水力発電の導入経緯や活用方法、地域へのメリットなどを学びましょう！

日時

2024年 1月13日 (土)

会場

9:15 受付開始

9:30 開会

- ・「安来市再生可能エネルギー地産地消ビジョン」について
- ・R5年度調査概要について
- ・講演①「バイオ炭の燃料利用の取組事例」
- ・講演②「地域小水力発電－地域で小水力に取り組むステップー」

11:50 終了

安来市総合文化ホール
アルテピア 会議室
安来市飯島町30

安来市
再生可能
エネルギー
地産地消
ビジョン
(5.3MB)



【主催】島根県 環境生活部 環境政策課 【共催】安来市 【運営】株式会社エブリプラン

この事業は「エネルギー構造高度化・転換理解促進事業補助金」を活用しています。

講演①「バイオ炭の燃料利用の取組事例」

(有) 紋珠
高槻バイオチャーエネルギー研究所
所長 島田 勇巳 氏

放置竹林問題は日本各地で深刻になっています。しかし約4年で成長する循環資源とも言える竹材を上手く管理することで、地域の再エネ資源に転換できる新しい炭化技術をご紹介します。



安来市再生可能エネルギー地産地消ビジョン

方向2 再エネの熱利用分野や燃料分野の普及に向けて、地域課題解決型の安来らしいビジネスモデルを創出します。

地域課題の放置竹林からバイオ炭燃料製造

竹を不完全燃焼させると炭(=バイオ炭)になり、暖房用などの燃料に使うことができます。化石燃料からの転換を目指すとともに、産業振興につながるモデルを検討します。

講演②「地域小水力発電ー地域で小水力に取り組むステップー」

(株) リバー・ヴィレッジ
代表 村川 友美 氏

水は地域の上と下をつなぎ、また過去と現在、未来を繋ぎます。地域共有の水をエネルギーに変える小水力発電事業とはどのような取組なのかをご紹介します。



安来市再生可能エネルギー地産地消ビジョン

方向1 市内の再エネ発電量を増やします。

地域マイクロ水力発電の検討

- これからの時代は、地域密着型の発電モデルが期待されます。再エネをビジネスとして地域に普及させることで、エネルギー、資金、人(雇用)が域内循環し、地域活性化につながります。
- 小さな河川等を活用した地域密着型のマイクロ水力発電設置の可能性を探ります。

お申し込み

以下の申込先まで、電話・FAX・E-mailで、または下記QRコードを読み込んでWEBフォームからお申し込みください。

株式会社エブリプラン (担当: 門野、山田)

〒690-0816 松江市北陵町46-6

Tel. 0852-55-2100 Fax. 0852-55-2101

E-mail. info@everyplan.co.jp



申込×切

1月9日(火)

■FAX用申込書

ご所属		ご意見・ご質問など
お名前		
住所		
連絡先	電話: Eメール:	

※参加者の個人情報は、主催者及び委託先で安全かつ厳正に管理し、本事業の実施についてのみ利用し、同意なしに第三者に開示されることはありません。なお、個人情報保護法に基づき、新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的として参加者の個人情報を利用することがあります。